

「北山さんぽみちー過去から未来へ」

北山市民センター×青葉区中央市民センター

1 事業概要

令和5年6月から7月にかけて「リンゴの唄の謎」と「北山稜線めぐり」をテーマに講座を実施し、参加者の中から市民企画員を募って「北山さんぽみち」の活動を開始しました。令和6年3月には「荒巻の思い出を辿る」という公開講座を企画実施し、その講座受講生からの新たな企画員が加わり活動しています。令和6年度は企画員のより深い地域学習を目指し、地域の魅力を発掘するため大人事業としました。時代による北山周辺の変化の様子を住民の視点で掘り起こし、記憶を伝え魅力あるまちづくりにつなげることを目標に、現在まで様々な場所を訪ねて学習しています。



2 令和6年度の活動



「北山五山さくら巡り」、「伊達藩火薬製造の地と高須家の墓」、「資福寺のあじさい鑑賞」など令和5年度の企画会で決定した企画員現地学習会の他、令和6年度の企画会で決定した「東北大学科学計測研究所の太陽炉模型・パネル見学」、「国宝大崎八幡宮と愛宕神社」、「仙台浅草までの川筋を辿る」などの企画員現地学習会を行いました。特に東北大学訪問では、昔三条町にあった太陽炉について事前学習を進め、東北大学片平キャンパスに普段は一般公開していない太陽炉の模型と説明パネルがあることを突き止め、見学することができました。そして、北山交流まつりでは学習した内容を展示発表し、地域の方々に広めることができました。

「北山五山さくら巡り」、「伊達藩火薬製造の地と高須家の墓」、「資福寺のあじさい鑑賞」など令和5年度の企画会で決定した企画員現地学習会の他、令和6年度の企画会で決定した「東北大学科学計測研究所の太陽炉模型・パネル見学」、「国宝大崎八幡宮と愛宕神社」、「仙台浅草までの川筋を辿る」などの企画員現地学習会を行いました。特に東北大学訪問では、昔三条町にあった太陽炉について事前学習を進め、東北大学片平キャンパスに普段は一般公開していない太陽炉の模型と説明パネルがあることを突き止め、見学することができました。そして、北山交流まつりでは学習した内容を展示発表し、地域の方々に広めることができました。

3 成果と課題

企画員現地学習会を重ねる中で、企画会議で調べた内容以外にも事前に現地の下見をしたり、また図書館で資料を調べたりするなど自主的に学習してから学習会に参加する方が増えてきました。講師から説明を聞くだけという受け身の姿勢ではなく、能動的に地域の魅力を学ぼうとする積極性や意欲を感じます。引き続き新たなテーマに取り組んで地域への理解を深めながら、その自主学習の成果をきちんと発信することも課題と捉えています。



4 今後の展望



今後も散策や企画会議などを通して地域の魅力を発見し、伝え、魅力あるまちづくりに向けて人材育成を行っていきます。今年度の事業で興味・関心が高まった北山市民センター周辺の昔の川筋を中心として、それに関連するへくり沢や四ツ谷用水などを辿って再学習することと、今年度も参加した北山交流まつりに令和7年度も参加することを計画しています。年度当初から内容をじっくりと話し合い、学習した地域の魅力を伝えていきます。